
細川ハルトの輪廻

フクヤン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

細川ハルトの輪廻

【Nコード】

N0556Z

【作者名】

フクヤン

【あらすじ】

トラックにひかれそうな女性を助けて死んで、気がついたらそこはお花畑で神様も居て…… この小説は『細川ハルトの転生』を書き直したものです。

第1話（前書き）

まずは謝罪、再投稿が遅れて申し訳ありませんでした。学校のテストが忙しくて……すいません、見苦しい言い訳です。

今回はプロローグです。

基本の設定は前回投稿していたものと同様で違いはありませんが、話が少し違つかもしれません。

第1話

夏のとある月曜日、俺はいつも通り学校に向かう道を歩いていた。

「ああ、もう暑いなこんちくしょう」

今日の太陽はご機嫌らしい。

天気予報によると、天気は快晴、昼間は30度を越える炎天下だった。しかも、この暑さが一週間も続くらしい。俺は金曜日までにダウンするだろうな。

そんなどうでもいいことを考えて歩いていると、信号に引掛かってしまった。いち早く学校にたどり着いて影に入りたいというのに……

「……ん？」

向こうからトラックが走って来るのが見える。なんだかふらふらと危なっかしい動きでこっちに向かって来ていた。居眠り運転かな？ そのトラックの進行方向を見ると、携帯をいじっている女性が見えた。女性は携帯の画面にしか関心がないようでトラックにまだ気づいていないようだ。このままでは確実にぶつかる。

「そこの人！危ないよ！」

叫んでみるが声は町の喧騒に紛れて消えていった。トラックはもう少しである女性に突っ込んでしまう。

俺は走り出していた。

女性をトラックにぶつかる寸前で突き飛ばす。携帯が落ちる音が聞こえた直後、全身に強い衝撃を感じた。

気づくと、俺は空中に放り出されていた。当然、空を飛べない俺は重力に引っ張られる訳で。

「うわああああ!!」

背中を地面に叩きつけられ、肺から空気が全て吐き出され、一瞬息ができなくなった。失った空気を取り戻そうと、一気に空気を吸い込むと、濃い花の香りがした。

「…花？」

俺が最後に見た景色に花なんてなかったはずなんだが。辺りを見回すと、ずっと向こうまでいろんな花で埋め尽くされていた。

「まるで天国みたいだ…」

もしかとは思うが、俺は女性の代わりにトラックにはねられて死んじゃったとか？

「まさかね…」

「そのまさかです」

誰だ、俺の心を勝手に読むやつは。

声が出た方向に振り返ると、そこには申し訳なさそうな顔をした

美しい女の人が浮いていた…

「…浮いてる!?!」

「まあ、神ですから」

「え? 神様あ!?!」

ああ、もう色々ありすぎて意味がわからない。誰かこの状況を説明してくれ!

「私が説明しましょう」

また、心読まれた…勝手にどうぞ。もうどうでもいいや。

「では勝手に始めさせてもらいますね。まず、あなたは死にました」

マジか…まあ、気づいたら花畑に落下した時点でうすうす感じてたけどさ…

ごめんねお父さん、お母さん。二人より早く死んじゃったよ…遺品とか、勝手に漁つといていいよ。それと妹よ…

「…辛いでしょうが、話を続けますね。あなたが死んだ理由についてですが…」

事故死でしょう。

「一応そうなのですが、あなたは死ぬ予定ではなかったのです」

…実際死んでるんですけど。

「そこです。実は私達のミスでああなたは予定より早く死んでしまったのです。本当に申し訳ありません…」

神のミスね…まあ、それはいいとして、なんだか転生ネタの小説でよく見る展開だね。

俺がなんとなく心の中で呟くと、神様は少し驚いた表情になった。もしかして本当に転生しちゃったりするのかな？

「よくお分かりになりましたね、その通りです。あなたには転生してもらいます」

マジでか。俺は転生しなくても、このまま天国行きのほうが気楽でいいけどね。

「もう決定事項です。ついでに言うておくと、これを断れば無条件で地獄行きですが…：…しかたありませんね、この話はなかったことに…」

「行きます。どんな世界でどんな環境だろうと、喜んで転生させてもらいます」

「そうですね、それは良かった。私も地獄送りにするのは心苦しいですからね」

地獄行きだけは嫌だ。絶対。血の池風呂とか気分悪すぎるだろう。

「では、あなたの設定や転生先の世界はこちらで決めさせてもらいますね。あまり退屈がないようにしますので、安心してください」

あ、そつちで勝手に決めちゃうんだ……まあ、さつき自分で言っちゃったし仕方ないか。でも退屈しないような設定が不安で仕方ないのだが。

「さあ、そろそろ時間です。二度目の人生を楽しんでくださいね」

瞬間、俺は強い眠気に襲われた。それにあらがうことなく瞼を閉じる。

「まずは性別……まあ男ですね。あ、そつだ男の娘にしましょう」

「はあ！？おい……ちよ！……」

二度目の人生は退屈しなさそつでなによりだ……

第1話（後書き）

感想、アドバイス等々お待ちしております！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0556z/>

細川ハルトの輪廻

2011年12月2日01時52分発行